

認定特定非営利活動法人 日本雲南^{れんぎ}聯誼協会

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区山谷左内町 21-13 1 階

Tel: 03-5206-5260 Fax: 03-5206-5261

Email: yunnan@jyfa.org URL: http://www.jyfa.org/

【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
Tel: +86-871-63311468 Fax: +86-871-63320658

f http://www.facebook.com/NPO.JYFA @jyfa

ブログ「雲南の郵便屋さん」 検索

編集・発行人 初鹿野 恵蘭

印刷協力 昭和情報プロセス(株) (株)技術評論社

Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

第59号 特別号

発行日 2016年(平成28年)11月15日

会
報

アジア未来への人材育成事業

第4回日本雲南大学生交流グローバル リーダー育成プログラム活動報告

日本と中国雲南省の
大学生がチャレンジ！
グローバルに社会を捉
え新しい社会貢献の形
を創る！交流から生ま
れる新時代プログラム

日本雲南聯誼協会が行なっている「アジア未来への人材育成プロジェクト」事業の中の一つ「日本雲南大学生交流グローバルリーダー育成プログラム」が2016年9月1日(木)～9月11日(日)(10泊11日)に行なわれました。このプログラムは、日本と雲南の大学生が力を合わせて農村貧困地域の問題や地域問題などを現地に入り、住民や地元団体との交流、テストプランの実施を体験し、それを基に社会貢献プランを創ることが目的です。日本とアジア各国、実は共通する問題を持っており、人口のいびつな流動化、経済発展と引き換えに悪化する環境、そして解消しづらい貧困と地域格差など日本を先頭と同様の社会問題が各国で起きており、これら問題に取り組む必要があります。第4回目となる今回のテーマは地域にとわれないグローバルな見地からこれらの社会問題を考え、社会の様々な組織や団体との連携と協働を取り入れたプランを創ることが求められました。

先ず雲南に行く前に、事前学習会が2回東京にて行なわれ、初めて訪問する雲南の情報や社会連携など本番に向けて3名の講師により様々な講義が行なわれ、参加者は初めて知る雲南



協会にて事前学習会を実施、ハウス食品元顧問・野村孝志さんの講義

やアジアの問題に興味津々と同時に社会問題の深さに頭を悩ましていました。

今回、日本からは4大学より6名が参加、雲南からは5大学より9名参加が参加し4チームに別れ、地域経済チーム、教育チーム、環境衛生チームそして生活チームに別れ日雲混合チームを結成、10日間にわたり雲南でのフィールドワークを実施しました。現地では弊協会支援小学校で宿泊し、周辺貧困農村への訪問調査を始め、地域小学校を訪問し小学生との運動交流や、現地NGO団体の社会貢献活動の視察、そして自治体や政府機関、民間団体との交流な

ど、このプログラムならではの多彩な活動に参加し、各チームは社会貢献プラン作りに精力的に取り組みました。そして最終日には審査員9名によるプラン審査発表会が行なわれ各チームの考案した社会貢献プランを厳正に審査。例年にも増してより具体的な方法と社会連携を取り入れたプランが各チームより元気良く発表され審査員はその内容の濃さに質疑応答やプランへの意見が続き白熱した審査会となりました。

そして、当プログラムは各団体個人の皆様の多大なるご協力により実現することができまし

た。一般社団法人東京倶楽部様の助成をはじめ、雲南省人民政府機務弁公室、地方自治体の首長並びに関係各機関、現地小学校、そして現地NGO蒲公英社会総合服務センターの多大なるご協力において、貧困地域でのフィールドワークや過去に無い様々な交流の場が実現しました。そして最終日にご参加していただいた各審査員の皆様へここにおいて改めて感謝致します。

今後も当プログラムは大学生の皆様豊かな発想と熱意を形にして、日本と雲南を中心にアジア全体へ、より良い社会の実現を目指す人材の育成に努めていきます。



参加者・ご協力者一覧 (敬称略・順不同)

主催：認定NPO法人 日本雲南聯誼協会

助成支援団体：一般社団法人 東京倶楽部

実施支援団体：専修大学・孤崎 知己教授、雲南省人民政府機務弁公室、雲南省招商合作局

昆明市盤龍区政府、昆明市海外聯誼会、昆明飯店、楚雄州副州長・關立彤、楚雄州人民政府

外事機務弁公室・鄒志遠主任、武定県政府・普副縣長、孟副県長、武定県教育局・李德光副局長

武定県人民政府外事機務弁公室・楊慶偉、武定県插甸鎮書記 余海洋、武定縣插甸鎮・張鎮長

武定縣插甸小学校・高蘭珍、武定縣老木壩小学校・熊校長、NGO蒲公英社会総合服務中心、INNO雲南印能科技会社、雲南自然と文化遺産保護促進会、老木壩村小学校

插甸中心小学校、金康園小学校、雲南人家、雲南民俗村、老木壩村村民のみなさま

サブメディア：雲南日報、雲南網訊昆明教育テレビ局(昆明教育ニュース)

参加大学：専修大学、法政大学、千葉大学、東邦大学、雲南民族大学、

雲南大学演池学院、昆明理工大学、雲南財経大学

審査委員：日本雲南聯誼協会・理事長 初鹿野 恵蘭、理事 林 則幸、会員 平田 栄一

昆明理工大学・韓寧先生、雲南財経大学・肖涵予先生、昆明理工大学・柳陳堅教授

金康園小学校・李 雪莖校長、文 戈先生、雲南自然と文化遺産保護促進会・連 芳副會長

参加大学生：日本参加者6名、雲南参加者9名(累計参加者数 86名)

(1)地域経済チーム：古館 達也(千葉大学) 宗野 航来(法政大学)

宮 茂浩(雲南民族大学) 範 宜東(雲南民族大学)

(2)教育チーム：梅原 康孝(専修大学) 劉 柏潤(雲南大学演池学院)

于 家浩(雲南財経大学)

(3)生活チーム：小牧 恵介(専修大学) 王 裕森(雲南大学演池学院)

段 茜(雲南大学演池学院) 趙 帥(昆明理工大学)

(4)環境衛生チーム：始澤光太郎(専修大学) 市来 亮(東邦大学)

李 瑞瑞(雲南大学演池学院) 陳 麗娜(雲南民族大学)

実施随行者及び事前学習 メンター：理事 林 則幸、会員 平田 栄一、顧問 野村 孝志

事務局：徐 芸(雲南事務所) 黒沼 明恵(東京本部)

日程：2016年8月6日(土) 国内事前学習会実施、8月24(水)最終学習説明会

雲南省本実施 9月1日(木)～9月11日(日) 11日間

スケジュール

雲南省
昆明市・老木壩村での活動

- 9月1日(木) 羽田空港から広州経由で雲南省の省都昆明へ!
- 2日(金) 日本と雲南の大学生が初対面! オリエンテーションと活動目標決め! おそろいのTシャツを着て、心も一つに一致団結!
- 3日(土) メンバーそれぞれに思いや目的を持ち、いざ老木壩村へ! 途中では小学校の運動会に参加したり、NGO活動の見学も。
- 4日(日) 老木壩村の家庭訪問調査。日本と生活のあまりの違いに驚きの連続! 明治大正時代の日本の農村を訪れたような感覚でした。
- 5日(月) この日はあいにく一日中豪雨。小学校の子供たちへ模擬授業や竹馬作りをしました。喜んでもらえた!
- 6日(火) 老木壩村をあとに昆明市内に帰還。市内にある教育モデル校を訪問。
- 7日(水) 雲南民族村を訪問。民族の多さをもっと知ることながら、その生活様式の多様性に驚きを隠せませんでした。各チーム市内でフィールドワークを実施。
- 8日(木) 雲南大学演池学院を訪問交流! 中国の大学は広い!
- 9日(金) 雲南招商合作局の方々との会食。貴重な時間を過ごしました。
- 10日(土) 発表審査会! 村で調べてきたことを中心に各班が熱のこもった発表。しかし、この日で雲南学生とはお別れ。涙する学生も...
- 11日(日) 早朝の便で日本へ帰国。予定通り無事帰国しました!



チームTシャツは参加メンバーがデザイン

全員元気に帰国!



各チームプランと完成

までの努力の足跡

生活
チーム小牧 恵介・王 裕森
段 茜・趙 帥

日本のベルマーク運動を参考に、企業のCSVに働きかける、企業を巻き込んだ農村支援方法を提案。



私たち生活チームは、今回のプロジェクトのなかで「生活改善」をテーマに活動しました。私たちのチームは、とてもユニークでした。メンバーにはそれぞれの考えがありなかなか一つにまとまりませんでした。また、日本語を話せない学生もチーム内にはおり、コミュニケーションをとるのに苦労しました。しかし村に着く頃にはみんなが一つになりフィールドワークを行いました。私たちは老木壩村でのフィールドワークの中で、現地の赤土や農民の生活環境、又は食生活などを調査しそ

れを基に改善プロジェクトを考案しました。そして私たちは赤土の有効活用を提案しました。農業においては生産性の低い赤土ですが赤土でも生育しやすい作物を生産しつつ、観光資源として利用しようというものです。この活用にとり着くまでの過程でコミュニケーションを取り、メンバーの気持ちも一つになったように感じました。最初は初めての中国に戸惑っていた私も、皆に助けられて最終日にたどり着けたと思います。メンバーの皆さん、ありがとうございます！

環境
衛生
チーム始澤光太郎・市来 亮
李 瑞瑞・陳 麗娜

手洗いに對して子どもがインセンティブを持つような仕掛けを作ることによって手洗いの習慣づけさせる方法を提案。



初日に私たちは、現地調査の際に注目するものを話し合いました。そこで出た内容は水、トイレ、ゴミ、食品などです。現地の状況がほとんどわからなかったため、最初からひとつに絞ることはせずに実際の状況を見てから判断することにしました。実際に現地でこれらについて見た結果、小学校には石鹸がありませんでした。子供たちの手は爪の中に土がついていたり、あまりきれいだったとはいえませんでした。道には

ゴミが結構落ちていました。特にお菓子のゴミ多く小学生がポイ捨てをしているのだらうと思われます。ペットボトルや缶、ピンは回収しそれを換金している人がいるそう、まったく落ちていませんでした。給食の食べ残りなどは家畜の餌になるため生ゴミはほとんど出ません。しかし、プラスチックなどのゴミは燃やすしかなく、あまり環境にもよくないなと思いました。そのため、チームとしてゴミ処理について検討しましたがあまりいい案が出ませんでした。最終的に私たちのチームは、小学校に石鹸を設置しようということになりました。しかし、設置しただけでは石鹸で手を洗う習慣が身につくとは限りません。そこで、どうすれば習慣づけすることができるかが課題となり、私たちは石鹸の中に小さなおもちゃを入れることを提案しました。



家畜用の草を運ぶお母さん。実際持ってきたところかなり重いです



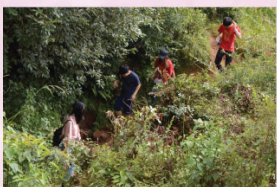
農村では実際に家にお邪魔してお話を聞きました



どの農家も台所には殆ど物がありません

お世話になった老木壩小学校
めっちゃ元氣な子供たちにタジタジ

村内の道は全て舗装されていません。チームは別れて農民に丹念にインタビュー



宿泊した小学校では全て地元で採れたての食事をいただきました。みなさん絶賛！

地域経済
チーム古舘 達也・宗野 航来
宮 苡洛・範 宜東

農村にある埋没資源を農家の新たな収入源とし経済的自立を支援する方法を提案。



今回のプログラムは中国の農村地域を中心に活動が行なわれました。その中でも私が今プログラム中に滞在した老木壩村に焦点を当て、そこに住む人々の経済的な問題点を発見し、それを改善することで現地住民の生活水準の向上に貢献できるようなプランを考案しようと試みました。私たち地域経済班は村でのヒアリング、さらにはインターネットでの調査を行った結果、老木壩村で採れる主要な農産物がトウモロコシと胡桃であることがわかりました。そのた

め私たちの班はトウモロコシと胡桃それぞれの有効的な活用方法がないか探るため分担することにし、私はトウモロコシの活用方法を検討することになりました。しばらく調べを進めていくうちに私はふと「トウモロコシの可食部以外は廃棄されているだけではないか」ということに気づき、通常では捨てられている部分の活用方法はないかと調べた結果、ヒゲの部分乾燥させることで南蜜毛という生薬を作ることが可能であるとわかりました。私は今まで一度も中国に行った経験がなかったのでそれを得られたということでもう大きな財産になりました。それに加え、今回のプログラムでは観光では行くことがないであろう農村部にも宿泊することができたので以前よりも少しは文化的に多様な人間へと成長できたのかなと思います。これらの経験をこれからの社会人生活にも役立てて生きていきたいです。

教育
チーム梅原 康孝・劉 柏潤
于 家浩

地域間に存在する教育格差を、教育主体の相互連携による包括的解決方法を提案。



教育チームは様々なフィールドワークを行った結果、教育の質について注目しました。中国では通常小学1年生から英語の授業がありますが、私たちが訪れた村の学校では小学4年生まで英語の授業がありませんでした。この問題は、中学校にあがる際に英、数、国のテストを行うのですが、村の小学校の子供達は4年間の英語のプランクがあるため、通常の小学生と比べて非常に不利になってしまう点です。子供達に夢を聞いてみたところ、学校の先生や医者、科

学者など高学歴が求められる職業を上げる子供達がいました。私たちはこうした子供達の将来の可能性を私達のために、英語の授業が必要なのではないかと考えました。しかし、NGO等の組織や大学などの機関を巻き込む必要があり、実現性が低いというのが難点でした。また、提案する際のデータが圧倒的に足りず説得力に欠けていました。教育というテーマで課題発見から解決まで至る難しさもありました。例えば私たちは子供達の将来の選択肢を広げるために英語指導をしっかりとさせるべきという提案をしました。が、現状そうならない複雑な理由や、英語を村の子供に教える必要はないと考える人もいます。最も大事なことは村の子供、親、教師がどう考えているかですが、その内輪だけで改善するにはかなりハードルが高く、しかし外部からのシステム導入がいかに難しいかということをとて痛感しました。

グローバルリーダーシッププログラムに参加して…雲南の大学生の感想

言葉の違いを乗り越えて

趙 帥
昆明理工大学



今年の9月、「グローバルリーダーシップ」に参加して、実に多くの事を学ぶことができました。このプログラムの中で、最も印象に残ったのは老木壩小学校での日々です。この地域は比較的貧しい地域で、電気や水道などの生活インフラなどが不十分で生活条件も厳しいですが、子供たちはそれらの困難に屈せず、たくましく成長しているように見えました。彼らは将来、何を目指しているのかが気になり、子供たちに将来の夢を訪ねてみると、医者、軍人、先生

など、人の役に立てるような職業に就きたいという答えが返ってきました。なぜ、そういった職業に就きたいのか訪ねたところ、大きくなったら、それらの仕事を通して、今までお世話になった方々に恩返しをしたいということでした。これにはとても感動しました。

また、私は日本人の学生と接触したのは今回の活動が初めてでした。しかし、日本人の学生と問題なく交流することができました。彼らと一緒に調査や発表準備をして行くなかで、私は日本人と中国人の考えが似ているということに気がつきました。生まれた国は異なっても、文化は非常に共通点が多くありました。また、今回の活動の中で日本人と中国人の異なる点も発見しました。現地調査の時、中国人の良いところとして、はじめがなく、だらだらしてしまう所がありました。しかし、その一方で日本人ははじめがあつて、集中して調査や勉強に取り組んでいました。発表準備の際にも日本人は睡眠を削ってまで、発表のプレゼンをしていました。このことに私達中国人は大変驚きました。交流の時間はとても短かったですが、私たちの友好はこれからも長く続いていくと思います。

コミュニケーションの大切さ

陳 麗娜
雲南民族大学



今回のグローバルリーダー育成プログラムでは教育、生活、環境衛生、経済の4つのテーマに分かれ、実際に農村部で調査をし、最終的にそれぞれの問題解決策を発表しました。日本人学生と行動する中で、多くのことを学びました。最も印象的なものは、自分の日本語能力やコミュニケーション能力が高まったということです。考え方や物の見方も異なるということにも気づきました。日本人学生と共に生活し活動を行うことで、たくさんの新しい発見がありました。このような点で、今回グローバルリーダーシッププログラムに参加する意義があったと思います。異文化交流においても、語学能力やコミュニケーション能力の重要性にも気づきました。プログラム終了後、日本語能力をさらに高めたいと強く思うようになりました。言語能力だけでなく異文化を尊重し、思いやることが重要であると思いました。いずれにしろ、やはりこの10日間はいい思い出になりました。

最後に、一点残念だったことがあります。それは、チームワークをうまく活かせられなかったことです。チームの中でお互いを信頼し合わな

いといけなかったと思います。それは今回の最終報告会の際に気づきました。私たち環境衛生チームは一人ひとりは努力し活動を行いました。が、チーム内で緊密なコミュニケーションが取れなかったため、最終的に発表の際うまく活動の中で考えた構想を発表できなかったのです。今後もし機会があれば、次はチームワークを心がけたいと思います。

最後になりましたが、今回のプログラム運営に携わって頂いた協会の方や日本人の参加者の方に感謝したいです。このプログラムは忘れることの出来ない思い出になりました。

最終発表審査会



審査員 (順不同、敬称略)

日本雲南聯誼協会・理事長 初鹿野 惠蘭、理事 林則幸、平田 栄一 会員
昆明理工大学・韓寧先生、雲南财经大学・肖涵予先生、昆明理工大学柳陳堅教授
金康園小学校・李 雪菲校長、文 戈先生、雲南自然與文化遺産保護促進会・連芳 副会長

最優秀賞は地域・経済チームに決定。
表彰状と副賞が初鹿野理事長より授与されました。

みんな、最後までやりきった達成感にホットした笑顔が



9月10日、昆明飯店会議場にてプラン発表審査会が行なわれました。皆さん厳しい審査と聞いてとても緊張していましたが本番では、堂々と発表。審査は、どのプランも充実した内容に優秀チームの選出に苦労しました。



発表プラン審査を終えて

韓寧先生
昆明理工大学



今回の発表会の審査員として、みなさんの発表を聞いて光栄でした。4チームに分かれ、村で調査を行い、村の発展について考え、素晴らしい発表を行ったことに祝福します。発表を聞いた時の第一印象は感動です。一人ひとりが真剣に村人や子供の未来の発展のためプランを考えたことは感動させられました。国や大学や専門が異なる様々なバックグラウンドを持った生徒たちが協力していた姿にも感動させられ、細

かいところまで観察し、各自の独特の角度から考えられた発表には様々な特色がありました。例えば、環境衛生チームの手洗い運動は、手洗いの時に服に水がかかっているというような細かいところまでよく観察されていました。経済班は先進加工技術を用い、トモロコシを漢方薬にし、日本に輸出することによって、村人の経済水準をあげるという創意的で大胆なアイデアでした。またクルミに関しては、審査員各々が各自の考える具体的な有効的な提案をしていました。すべての活動の中で、学生たちが総合能力や観察力、団体行動能力、文化交流能力が身に着けられたことは幸せに思います。発表は終わりましたが、継続してこのプランを実行に移してほしいです。学生のこのような行動が村を強く、子供たちが希望に満ちた状態になるよう願います。

最優秀章受賞の感想

経済チーム
宗野 航来



今回グローバルリーダー育成プログラムに参加し実際に雲南省に行ってみて、中国の農村の「リアル」な生活を見ることができました。その中で実に多くの学びがありました。1点目、中国の格差問題です。これは村の様子からして、中国の他都市や昆明市内とは明らかに違いがありました。単刀直入にいうと「未開拓」ともいえるかもしれません。しかしその中で懸命に生きる中国の人々の活気を見ることができました。特に、学校に行った時の先生の熱意ある姿と学生の必死に勉強する姿には心を打たれました。2点目は中国の豊かな少数民族の文化の特色です。雲南省には25の民族がいて、各民族が同地域で共生している姿を見ることができました。雲南省は多くの民族

の文化が入り混じった文化的に豊かな地域です。日本では民族の違いを感じることはあまり多くありませんが、中国では民族ごとに言葉や宗教が異なったりしていますが、雲南で見た限り、互いの民族を尊重しあい、うまく共生しているように思えました。3点目に、中国に暮らす人々や同じくプログラムに参加する中国の学生と対話する中で、中国人という国民性を理解しました。中国の方は明るく前向きな人が多く、日本人と比べると活気がありました。またお節介な一面もあって、今回のプログラムで中国人の暖かさを感じることはできました。日本とは政治的に様々な問題を抱えています。雲南省の方は暖かく僕たちを迎えてくれました。雲南省の学生も優しくサポートしてくれました。決して日本と中国は対立する関係ではなく、共生できると思います。

その他の交流教育プログラム

中心小学校運動会に参加！

9月3日(土)、武定県挿甸中心小学校にて開催された運動会に参加しました。小学校に到着すると武定県関係者や子供たちから熱烈的な歓迎を受け参加者はびっくり。運動会ではバスケットボールや卓球、縄跳びや綱引きなど様々な競技を、沢山の子どもたちと共に時間が経つのも忘れる程、楽しめました。そして運動会の最後は、ナシ族の民族舞踊を2度3度と踊り、参加者たちは再訪の約束をして学校をあとにしました。



少数民族の小学生に囲まれて戸惑う参加者



ナシ族の民族舞踊を覚えました



元気良すぎる小学生チームとの綱引きでは敗れてしまいました

模擬授業や課題に挑戦

老木壩小学校に滞在中には、子供たちに模擬授業を行うことが出来ました。子供たちの手が汚いことに気がついた大学生たちは、手洗いのしかたを教えました。また、手洗いのしかただけを教えるのではなく、なぜ手洗いをするのかまで教える事で、手洗いが習慣化するように働きかけました。



子供たちになぜ手洗いをする必要があるのか授業で理解してもらいました。

地元の竹を材料に竹馬を製作。全て実践あるのみ！頑張りました！



実際に、子どもたちへ手洗いの仕方を教えてみました。



農村でのNGO経済支援事業を視察



「授人と魚不如授人と漁」(わかりますか?)を説明する馬宏翔代表(写真右)。今回のプログラムの実現にあたり現地自治体や小学校等への説明にご尽力をいただきました。心より御礼申し上げます。

武定県挿甸中心小付近の集落胡桃村を訪問。現地NGO蒲公英社会総合サービスセンターが行っている、廃校を利用した地域経済支援のための胡桃栽培について参加者は視察を行いました。代表の馬さんからこの事業の内容と必要性、そして理念についての説明に皆さんリアルな農村開発の現実に驚嘆していました。また代表から今後事業の発展について協働を提案され参加者たちは可能性について議論が絶えませんでした。



事後発表報告会

9月24日(土)に日本雲南聯誼協会本部(株式会社技術評論社大会議室)にて「第4回日本雲南大学生交流グローバルリーダー育成プログラム」の事後発表報告会を行いました。当日は、多数の会員の方々の

参加をしていただき、各チームのプランの発表報告を行いました。参加者の皆さんからは、様々な評価が聞かれました。それらは、これからの大学での学習に繋るものになりました。参加していただいた皆様、本当にありがとうございました。



協会会員、役員などの方々にお集まりいただきました。プランの内容に皆さん関心高く、今後に期待との声が多数寄せられました。

リーダーの感想

梅原康孝

日本雲南大学生交流グローバルリーダー育成プログラム=JYGLP



今回のGLPには日本人学生6名、中国人学生9人で参加しましたが、みんなかなり個性的でした。異なる国の人とグループを組んで9日間過ごすという経験は貴重で、ほとんどのメンバーが今回のGLPで初めてでした。マイペースな人が多く意見がまとまらないこともあり、言語の意思疎通で少し戸惑うこともありましたが、みんなそれぞれ頭を抱えることもありながら、時には大騒ぎして楽しむ時間も多かったです。たった9日間ですが、この文

章を書きながら思い返してみると一分一秒が貴重な時間だったとしみじみ思います。メンバーもきっと同じように思っているでしょう。さて、この会報を読んでいる方に伝えたいことが一つだけあります。今回のGLPは自分自身を計り知れないほど成長させてくれたということです。というのも、僕個人のこのGLPを終えた直後の感想は、「悔しい」一言でした。帰国して1ヶ月半経ちますが当時と全く同じ強さの思いです。多くの困難があり僕はそれを壊すことができませんでした。しかし同時に自分のやるべきことが見えたきっかけにもなりました。GLPメンバーの一員として、また協会の一員として、GLPメンバーを成長させてくれるプログラムだと誇りを持って言えます。協会をはじめ関係者の方々のみなさん、本当にありがとうございました。

雲南省招商合作局の方々との交流



9月9日(金)には、杜勇局長をはじめとする雲南省招商合作局の皆さんと会食をしました。普段、新聞やテレビでしか知りえない情報を、現場の方の生の声で聞かせていただきました。また、経済などのお話に限らずメンバーの将来についてアドバイスなどをいただき、非常に有意義なお時間を過ごすことができました。

編集後記

社会貢献について主体的に考え、自分たちの力で社会貢献を形にしていこうことがこのプログラムの魅力です。今回、このプログラムに参加した学生達には、皆それぞれの目的があり、考え方や価値観に違いがありました。そのため、苦労した点や成長した点でそれぞれ個人によって違いがありました。日本人学生のなかには、初めて異国の文化に触れた者もあり、慣れない食文化や環境に苦戦した者も多かったです。それでも、やはり得られたものの方が多かったように感じます。語学の上達、国境を越えた友情、貧困問題の解決など、今回のプログラムで参加者たちが得られたものはとても貴重なものばかりです。

この場をお借りして、もう一度協会の方々と協力してくださった皆様に感謝の意を申し上げます。

本当にありがとうございました。
(市来 亮)